
LECTURE NOTES

世界宗教比較講義

— ユダヤ教からシンギュラリティへ —

ユダヤ教・キリスト教・イスラム教・仏教（顕教／密教）
そして即身成仏とAIによる人類の進化

収録日 2026年4月19日

編集 講義書き起こし+スライド資料

形式 講義録ドキュメント

目次

第1章 ユダヤ教とは何か — 最高神ヤハウエ

第2章 預言者モーゼの誕生と成長

第3章 神の啓示と出エジプト

第4章 中東の地理と現代の戦争

第5章 モーゼの十戒と40年の旅

第6章 ユダヤ教の聖典・聖職者

第7章 キリスト教 — 三位一体と救世主

第8章 イスラム教 — アッラーとモハメッド

第9章 三宗教の比較 — 双子・三つ子の宗教

第10章 仏教（顕教） — 仏と釈迦如来

第11章 仏教（密教） — 大日如来と空海

第12章 キリスト教・密教・仏教の比較

第13章 ゴータマ・シッダールタ（釈迦）の生涯

第14章 顕教の成仏論 — 六波羅蜜行と阿僧祇劫

第15章 密教の即身成仏 — 三摩地法

第16章 シンギュラリティへの架橋

第1章 ユダヤ教とは何か — 最高神ヤハウエ

ユダヤ教って何ですかっていうのを、これちょっと作ってみました。ユダヤ教のことは実はあんまり知らない方が多いんですよね。最高神って誰だか知ってますか。ユダヤ教には崇高なる唯一の神っていうのがあるんですね。この呼び方がいくつかあるんです。



ユダヤ教の基本構造（最高神・預言者・聖典・民衆）

「ヤハウエ」と言います。他にもね、呼び方がありますけれども。これね、ちょっと不思議なのになんでヤハウエって言うかっていうと、もともとこれヘブライ語っていうね、イスラエルのユダヤ人が使う文字は、これヘブライ語で右から左に読むんですけども、これがね、一番右の行ぼろっとうここ、ここに一番右端にあるよっていうのがYなんですね、アルファベットというYなんです。

それで次、これがHなんです。で、これがダブルで、これも一回、これを右から、これ頭文字なんですけど、それを発音すると、イヤハウエ、ヤハウエになるんですね。

ユダヤ教	
最高神	ヤハウエ
預言者	
聖典	
民衆	

ヘブライ語の YHWH (右から読んでヤハウエ)

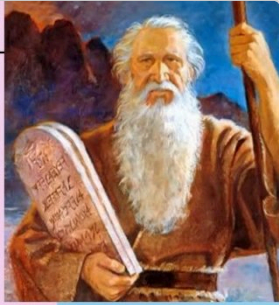

で、これはなんでかっていうと、例えばジーザス・クライスト、キリスト教とか欧米の人はね、困ったらよくジーザスとか言うけれども、ユダヤ教の人は神の名前を呼ぶことが不遜だと、失礼に当たると思っている部分があって、名前を付けてないんですね。それから、ユダヤ教は肖像画の禁止なんです。厳しく禁止してます。で、名前を呼ばない代わりに、関連のある頭文字を並べて頭文字としてヤハウエって言うんですね。で、これが最高神。このことをね、ぜひ分かってほしい。最高の神っていうのがある宗教なんだってことで。

本章のポイント

最高神「ヤハウエ」の名は、ヘブライ語の YHWH の頭文字。
ユダヤ教は神の名を呼ぶことを不遜とし、肖像画も厳しく禁止する。

第2章 預言者モーゼの誕生と成長

預言者は誰ですか？これは皆さんご存知のモーゼ、発音、正しく言うとモーセということの方が、よりイスラエルの人に聞くとね、モーセですって。モーゼと言わないでって言われるんですけど、モーゼという人、これはね、実在の人物です。どんな人かっていうとね、いろんな肖像画があるんですけど、これはもうイケメンに描き過ぎ。もうテルマエ・ロマエかよっていうね。で、こんな肖像もあります。石板を持って杖を持ってるのが、これはモーゼ、モーセという人です。

ユダヤ教	<モーゼ>	
最高神 ヤハウエ	・ヘブライ人（ユダヤ人） ・紀元前16世紀？頃エジプト生	
預言者 モーゼ	・誕生直後ナイル川に流される →ファラオの娘に拾われ成長 ・同胞を虐待するエジプト人を殺害 →アラビア半島に逃亡 →「 ヘブライ人をカナン の地に」との神の啓示を受ける（約束の地）	
聖典		
民衆		

預言者モーゼ（モーセ）－紀元前16世紀頃エジプト生まれ、ナイル川に流される

で、この人はヘブライ人、ヘブライ人なんだけど、アーリア・ヘブライ人と言われていて、アーリア、イラン人ってことです。イラン系のユダヤ人、ヘブライ人というのはユダヤという名前なんだけど、ユダヤ人の1種とってください、で生まれた。

何世紀に生まれたかっていうのは、実はね、説が数100年ずれがあるんですけども、一番古いとして、紀元前16世紀ぐらいにエジプトで生まれたということになってますんで、当時エジプトはファラオというピラミッドの主ですよ。ピラミッドを作ったファラオっていう人が代々いて、ヘブライ人がどんどん増えちゃうと、エジプト人より人数が増えちゃう。

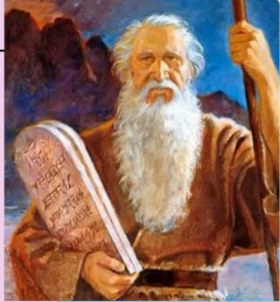
今回の外国人問題と一緒になんです。外国人がどんどん増えちゃうと、エジプトがエジプト人の国じゃなくなっちゃうという理由で、当時のファラオはヘブライ人は男の子が生まれたら殺せという大胆な厳しいルールを課してたんですね。で、生まれたモーゼを殺すのは忍びないと思った母親がナイル川に流したんです。桶に入れて。

それでドンブラコ、ドンブラコと流れてたら、下流近くのアレクサンドリアなのか、どっかでファラオの娘に拾われて成長しました。死なずにすんだってことですね。だからエジプト人のファラオによって殺されかけたけど、ファラオの娘によって拾われて育ててもらったのがモーセなんですね。

第3章 神の啓示と出エジプト

で、青年になった時にエジプト人がヘブライ人を虐待してるのを見て、頭にきて殺しちゃったんですね。人殺しです。モーセは出エジプトに行ったんだけど、アラビア半島に逃げます。そしたら逃げた先でヘブライ人を、要するにユダヤ人をカナン之地に連れて行きなさいという神の言葉を聞きちゃったんですね。

で、これを「約束の地」って言うんですけど、カナン之地って、これはパレスティナのことです。プロミス・ランドっていう。で、この概念をね、どうしてこんな話をしてるかっていうと、大変重要なのは、イスラエルとアメリカが深く繋がっている理由がここにあるんですね。

ユダヤ教	<モーゼ>	
最高神	ヤハウェ	
預言者	モーゼ	
聖典		
民衆		
	<ul style="list-style-type: none">・ヘブライ人（ユダヤ人）・紀元前16世紀頃エジプト生・誕生直後ナイル川に流される→ファラオの娘に拾われ成長・同胞を虐待するエジプト人を殺害→アラビア半島に逃亡→「ヘブライ人をカナン之地に」との神の啓示を受ける（約束の地）→エジプトに帰還→80歳でファラオに出エジプトを請願	

モーゼの生涯 — 神の啓示「約束の地カナン」を受け、エジプトに帰還

「約束の地」が現代に繋がる理由

イスラエルはこのモーセのストーリーを固く信じて、2600年間信じて、イスラエルにお約束の地として建国したから、今あの場所にイスラエルという国家がある。それは神に与えられた土地なんだ、というのが彼らの論理。アメリカもまた、ヨーロッパからやってきた人々がネイティブ・アメリカンを事実上皆殺しにした際、「私たちは神に導かれて約束の地に来た」というお題目を立てた。アメリカという国もイスラエルも、「約束の地」という手前勝手な論理を背負って原罪を抱えている、という見方ができる。

第4章 中東の地理と現代の戦争

で、ヘブライ人をカナン之地に連れて行く御託宣を受けて、モーセはエジプトに戻ります。エジプトにいるヘブライ人をパレスティナに連れて行かなきゃって言われてもね、もう寝てて、そういう夢でも見たんですかね。ただまあ、実際に行動を起こしてエジプトに戻ったわけです。

で、次に何をしたいかっていうと、80歳でファラオにユダヤ人をまとめてエジプト出ますって。エジプトから出ます、出エジプト、って言いますが、出ますって言ったんですね。お願いして最初はダメと言われたんだけど、色々あっていいよと言われて、行くことにしたんですね。

いっぱい何100人、何1000人を連れてカナン之地パレスティナを目指したんですけども、途中で気が変わったファラオがやっぱダメだと言って、あいつら殺せって言って、海まで追い詰めたんです。その時に起きたのが有名な「モーセの海割り」なんですね。



モーセの海割り — 神の力で海が裂け、ヘブライ人が脱出

これモーセの十戒と勘違いしてる人いるんですけど、十戒はこの後の出エジプトなんですけど、ファラオの軍隊に追われて行く先がなくなって、先海しかなかったのに、なぜか海が開けて道ができて、みんな逃げることができました。

中東の地図と「丸の中で完結する物語」

これがどこで起きたかっていうことを見る時に、中東の地図はこんなふうになってるんですね。イラン戦争が行われていますが、イランという国はここにあるわけですね。大きな国です。で、イスラエルはここです。こうちょっと2周りちっちゃい国です。



イラン（東）とイスラエル（西）－ホルムズ海峡を巡る現代の戦争の舞台

イスラエルの下の細長い海が紅海。ホルムズ海峡の西側、これがペルシャ湾。ペルシャ湾ってイランの海って意味です。日本海みたいなものですよ。ここに産油国があるから、ここからホルムズ海峡を經由して東方向にタンカーが出て行く。

イランとイスラエルが頭にあって、モーセが海を開いたと言われるのは、全てのユダヤ教のストーリーはこの丸の中でほぼ完結してます。



エジプト・シナイ半島・イスラエル－ガザ地区とヨルダン川西岸地区

イスラエルがここだよってことを分かってください。だからモーセが目指したのは、これ2つ緑がありますよね。ちっちゃい緑がガザ地区、おっきい緑がヨルダン川西岸地区なんですけども、このような大きい緑の辺です。今、ガザ地区は壊滅状態に近いと言われてます。

第5章 モーゼの十戒と40年の旅

そうするとモーゼの海割りが行われたのはどっちか、このアレクサンドリアの辺の浅瀬か、紅海の奥まったところ、どちらかでこういうことが起きた。これ神話と言われてるんだけど、ユダヤ人とかね、あるいは欧米の人にはあり得るって言うてんです。沖縄行ったらね、潮が引くと道ができるとかあるじゃないですか。ああいうことが起きたんだって言う人もいます。

これが起きて、エジプトから東へシナイ半島に渡ったわけですね。出エジプトの後、シナイ半島をなぜか南に下りていくんです。道に迷ったのと、何でまっすぐパレスチナ行かなかったのというのはいろんな説明あるんですけどね。シナイ山ってどこですか？シナイ半島の南の方なんです。神の啓示が降りて、なぜかシナイ山の方に行っちゃったんですね。



シナイ半島南端のシナイ山（赤い三角） — モーゼが十戒を授かった場所

これがね、もう運の尽きなんです。まっすぐパレスチナ目指してたら世界史変わってたんですけど、南にやおら降りてって、シナイ山に行ったら、また神様から言われちゃったんです。シナイ山で神から啓示、これを「十戒」と言います。モーゼの十戒っていうのは、海割りの後、シナイ半島を南下してシナイ山に行って、また神から啓示を受けちゃった。本気で思い込んだから、これ世界史作ってんだから、冗談じゃないんですけども。



出エジプトの推定路ーシナイ山（南端）からネボ山（東北の端）まで40年

シナイ山で神から啓示を受けて、いよいよ十戒を受けてよしと言ってパレスチナの地を目指したんです。これは80歳です。もう麻生太郎もびっくり。どういう脚力してんだよと、いうことなんですけど、モーセはこんなような旅路を経て、おそらくラメセスってところを出て。1、2、3とありますけども、3で海割りをして、シナイ半島に渡って南に降りていって、シナイ山に登ったら、神の啓示を受けて、今度は10、11と北上していくわけですね。

要するにカナン、パレスチナの地を目指す。いよいよ目指すんですけど、またぐるぐる回るんですね。シナイ山からぐるぐると、巡って、最後ネボ山というところに到着します。このシナイ山からネボ山まで40年かかってます。ちょっと遅いんじゃない？といろいろあったんでしょう。

ユダヤ教		<モーゼ> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘブライ人（ユダヤ人） ・紀元前16世紀？頃エジプト生 ・誕生直後ナイル川に流される →ファラオの娘に拾われ成長 ・同胞を虐待するエジプト人を殺害 →アラビア半島に逃亡 →「ヘブライ人をカナンの地に」との神の啓示を受ける（約束の地） →エジプトに帰還 →80歳でファラオに出エジプトを請願 →紅海を渡ってシナイ半島を南下 →シナイ山で神から啓示（十戒） →約束の地パレスチナを目指す →40年後カナンの目前で120歳で死亡 	
最高神	ヤハウェ		
預言者	モーゼ		
聖典			
民衆			

モーゼの生涯（完全版）ー40年後カナンの目前で120歳で死亡

で、40年かかってネボ山に入って、120歳でネボ山でモーセは死にます。ネボ、私も行ったことがあるんですけど、こういう標高700メートルぐらいの山で死んだと言われてるんですね。さっきのジェリコっていうね、死海ってあるじゃないですか、塩の海。そこを渡ったらね、山なんです。逆のネボ山からその死海を渡った先に着いたら、もうそこはカナンの地、パレスチナの地だったんだけど、そこに至ることなくモーセは死んだと言われているんですね。

モーセの宿願

どこに埋葬されたかは未だに分かっていないけれども、モーセは最終的な目的を果たせずに死んだ。神の啓示を受けてユダヤ教を開いたモーセの願いを叶えるというのが、敬虔なユダヤ教徒の宿願、本当の願いだったんだ — というのが彼らの論理。

第6章 ユダヤ教の聖典・聖職者

パレスチナの地にはパレスチナ人が住んでいたわけですね。そこはイスラム教の聖地でもある、キリスト教の聖地でもある。でもね、この3つの宗教はほとんど同じなんです。モーゼの話になんでこんなに時間をかけたかという、この決まりがあって、この前後の時のモーゼの記録、それが彼らの聖典になってます。でね、これ「旧約聖書」って書くとユダヤ人が怒るんですよ。

そうじゃなくてね、これ本当はね、「タナハ」って彼らは言うんですけども、旧約聖書ってのは、その600年後でキリスト教ができた時に新しい聖書ができた、ニュー・テストメントってのができたんで、こっちは古いから旧約聖書って言うキリスト教の言い方なんです。ただ、皆さんにはその方が分かりやすいと思ってこうしてるんですけど、モーゼの行動記録、発言記録みたいなのがあったと言われる旧約聖書なんだよと。

他にも聖典はいくつかあるんですけども、要するに最初に言ったかな、ヤハウエという最高神から「律法トーラー」って言うんですけど、大宝律令の律令ですね、ルール、人間社会のルールみたいな、教わって、シナイ山で十戒で、その他にいくつかルールがあって、それを色々まとめてあるのが旧約聖書。これについて聖職者っていうのは実はユダヤ人聖職者っていません。正確に言うと、「ラビ」、ラビっていう、他の仕事をしないでユダヤ教に関する研究をする人をラビって言いますが、これは民衆の上に立つのではなくて、ユダヤ教徒は全員平等って考えてるんですね。

ユダヤ教	
最高神	ヤハウエ = アドナイ（「主」の意）
預言者	モーゼ = 神から律法（トーラー）を預かる（預言者）
聖典	旧約聖書
民衆	聖職者（ラビ） ユダヤ教徒 非ユダヤ教徒

ユダヤ教の枠組み（完全版） — ヤハウエ=アドナイ、モーゼ=律法を預かる預言者

ただ、一応この宗教的なことを専門にやる人をラビと言います。で、ユダヤ教徒の中にラビがいる。それ以外にユダヤ教を信じない人がいる。これがユダヤ教の人から見た宗教の固まりになるんですね。ヤハウエっていうのは「主」、主という意味の「アドナイ」とも言います。こっちの方がよく言うかな、イスラエルの人はね。

モーゼはアドナイ、ヤハウェからトーラーを授かった、預かったから「預言者」と。何か予言を当てる予言者じゃなくて、言葉を託された預言者ってことになるわけですね。モーゼの言行録が、神から貰ったトーラー律法と預言に関わる言葉とそれに関連する書類を合わせて「タナハ」と言うんですね。

第7章 キリスト教 — 三位一体と救世主

こんな仕組みになってるんです。じゃ、キリスト教はどうですかって言ったら、これはもう皆さんご存知なので、さっさと行きますけど、最高神は「GOD」、これはいわゆるヤハウェと似ていて、神様という一般名詞ですね。だから「父なる神」で、ギリシャ語の場合、三位一体思想って言うんですけども、いわゆる一般名詞としての最高神なんだっていうことは、ユダヤ教とおんなじです。元がおんなじですからね。

で、預言者は誰ですかって言ったら、これイエス・キリストですね。キリスト教では「預言者でありメシア」だと言っています。メシアって何ですかっていうのがまた大事なんですけども、ユダヤ教とキリスト教は、イスラム教もそうなんですけども、「終末思想」っていうのを持ってるんですね。いわゆるハルマゲドンってやつです。世の中は色々な意味でそれぞれの宗派、宗教が今は仮の姿なんだと。

終末思想（ハルマゲドン）


最後の日が来て、神様が「あなたは天国、あんたは地獄」と振り分け、それが世界最後の日。これは実はユダヤ教・キリスト教・イスラム教全部が共有しており、ユダヤ教から引き継いできた概念。

終末の時に現れる「神の使い」を **メシア** と呼ぶ。

キリストはユダヤ人なんだけども、神から言葉を託された預言者であり、かつメシアだってことなんです。これに加えて、キリストの場合は「三位一体」というのは、父なる神と子なるキリストと聖霊、これ3つが全部GODと一体化してますというのが三位一体思想。

そうすると、非常に重要なのは、モーセは川に流されちゃったユダヤ人ですよ。だから人間なんです。ところが、キリストは受胎告知で、そもそも神様によって身ごもって出てきた。その段階で神なんです。よ、キリストは。だから預言者キリストはメシアであり、神と一体化している、2つの性質を持つてる人間なんだけど、神でもあるというふうに考える。これがね、実はキリスト教の非常にラディカルなところなんです。

キリスト教	
最高神	God = 父なる神 + 三位一体思想
預言者	キリスト = 預言者であり救世主 (メシア)
聖典	旧約聖書 = ユダヤ教のタナハ 新約聖書 = キリストの使徒による記録書
民衆	聖職者 (神父・牧師) キリスト教徒 非キリスト教徒



キリスト教の枠組み (完全版)

聖典は何ですかって言ったら、旧約聖書、ユダヤ教の他に、これこのままではないんですけど、多少編集されてますけども、基本的にはタナハと同じものです。これに加えて、キリストの使徒たち、聖ヤコブとかマタイとか、ああいうキリストに生前のキリストと縁のあった、喋ったり、一緒に行動できた人たちが、「キリストはあの時こんなことを言っていた」という記録書を中心としたのが新約聖書で、新約聖書とタナハを合わせて両方が聖典になってるんですね。

聖職者は、カトリックは神父と言って、プロテスタントは牧師って言いますが、これ聖職者がいます、キリスト教で。民衆で、キリスト教徒がいて、キリスト教を信じない人は野蛮な人だとキリスト教徒は思っていて、キリスト教徒の方がよっぽど野蛮だと思うんですがね。人殺しはいっぱいするから。非キリスト教徒に分けてるということなんですね。

イスラム教も全く同じです。イスラム教はどちらかというとユダヤ教に近いんですけども、アラビア語の「アッラー」ですね。これは神を表す一般名詞なんですね。で、モハメッドっていうのも神から啓示、これに加えてコーランを預かった預言者なんです。

聖典は旧約聖書、新約聖書、ユダヤ教とキリスト教の聖典もイスラム教にとっても聖典です。その上で、600年代にアラビア半島で活動したモハメッドの言行録、モハメッドの使徒による口伝を文書化したものが、ざっくり言えばコーランだってことなんですね。

イスラム教	
最高神	アッラー = 神を表す一般名詞
預言者	モハメット = 神から啓示（コーラン）を預かった預言者
聖典	旧約聖書 = ユダヤ教のタナハ 新約聖書 = キリストの使徒による記録書 コーラン = モハメットの使徒による口伝を文書化
民衆	聖職者なし （ウラマー・イマーム） イスラム教徒 非イスラム教徒



イスラム教の枠組み（完全版）

民衆についても、これもね、実は聖職者というのは、ユダヤ教の場合もおんなじで、イスラム教は聖職者という仕事はないんですね。まああるんだよね、ちょっとこれは難しいんですけど、すごくイスラム教のことを深く理解してる人にいろんな名前が付いてて、ウラマーとかね、アヤトラとかいろいろ言うんですけど、それからイマームとかいろんなこと言うんですけども、そういうすごくイスラム教の教えに詳しい人とそうでない人、イスラム教は分かりますよと。

だからイランの最高指導者になるためには、アヤトラの資格があると望ましいと言われてるんですけども、暗殺されたハメネイ師はなった時にはアヤトラではなかったんですよ。だから後付けもできちゃう、緩やかなものですよ。

第9章 三宗教の比較 — 双子・三つ子の宗教

そうすると、この3つを比べるとこんなふうになっていて、最高神というのは全部一般名詞だっということが分かりますね。そして、預言者っていうのは一人ではないんですけど、代表的な人はユダヤ教モーゼ、キリスト教イエス・キリスト、イスラム教モハメッド。そしてイエス・キリストは神だけど、人かつ神だけど、モーゼとモハメッドは人間です。

	ユダヤ教	キリスト教	イスラム教
最高神	ヤハウェ	GOD	アッラー
預言者	モーゼ	イエス・キリスト	モハメット
聖典	旧約聖書	旧約聖書 新約聖書	旧約聖書 新約聖書 コーラン
民衆	聖職者 (ラビ) ユダヤ教徒 非ユダヤ教徒	聖職者 (神父・牧師) キリスト教徒 非キリスト教徒	聖職者なし (ウラマー・イマーム) イスラム教徒 非イスラム教徒

ユダヤ教・キリスト教・イスラム教 — 双子・三つ子の宗教

聖典はユダヤ教から順番にこういうふうになってる。要するにもう双子、三つ子の宗教とっていいんですね。

三宗教の共通構造

最高神： いずれも「神」を表す一般名詞（ヤハウェ／GOD／アッラー）

預言者： モーゼ・キリスト・モハメッド（キリストのみ神でもある）

聖典： 旧約聖書 → 旧約+新約 → 旧約+新約+コーラン と積層的

民衆： 聖職者（ラビ／神父・牧師／ウラマー等）と信者・非信者

第10章 仏教（顕教） — 仏と釈迦如来

じゃあ我らが仏教はどうなってますかという、語弊を恐れずにこのカテゴリーに分けるとこうなるんですね。しかもこれは「顕教」と言って、浄土宗とか浄土真宗とか禅宗とか、そういう密教でないものです。

最高神と書きましたけれども、仏教は八百万の神っていうのは神道だけど、いろんな神様いますよね。如来とか菩薩とか、いろんなのいっぱいいるんですけども、普通の仏教はいろんな仏の中でも「釈迦如来」って言って、要はインド人のゴータマ・シッダールタという名前を持って、インドに生まれた貴族の息子が、これ人間です。釈迦は人間です。

で、これが即身成仏に成功して釈迦如来になった。で、ほとんどの顕教では、実は最高神イコール釈迦如来になってます。最高神と預言者が一体化してるという意味ではキリスト教に似てるんですね。仏典というのはいろいろお経です。

仏教（顕教）	仏教（密教）
最高神 仏	最高神 大日如来
預言者 釈迦	預言者 空海など
聖典 仏典 般若経・華嚴経・涅槃経 金剛頂経・浄土三部経等	聖典 仏典 大日経・金剛頂経 瑜祇教・理趣経
民衆 僧 信徒 他宗派信徒 他宗教信者	民衆 僧 信徒 他宗派信徒 他宗教信者

仏教（顕教）と仏教（密教）の比較

こんなような組み立てになっていて、大事なのは最高神と預言者が一体化してる部分がある。違う宗派もありますけどね。比較すると、キリストとGODは三位一体で、最高神が仏ってのはちょっと正確ではないんですけど、釈迦如来、お釈迦様を信奉する。

「如来」っていうのは成仏した、悟りを完全に開いた人が如来で、開きそうな人、開く方向に向かっている人を「菩薩」っていうんですけど、釈迦如来ってのは完全に即身成仏した人として認められています。だから仏教のある意味でいう最高神と言ってもいい表現、ちょっとかなりこれ異論があると思いますけれども、キリスト教やユダヤ教やイスラム教と比較するときには、こういうふうに見てもらうと、実は仏教は

キリスト教に最高神と預言者が一体化してるという意味においては、顕教は似てるんだよねってことになるというところをまず押さえてほしいですね。

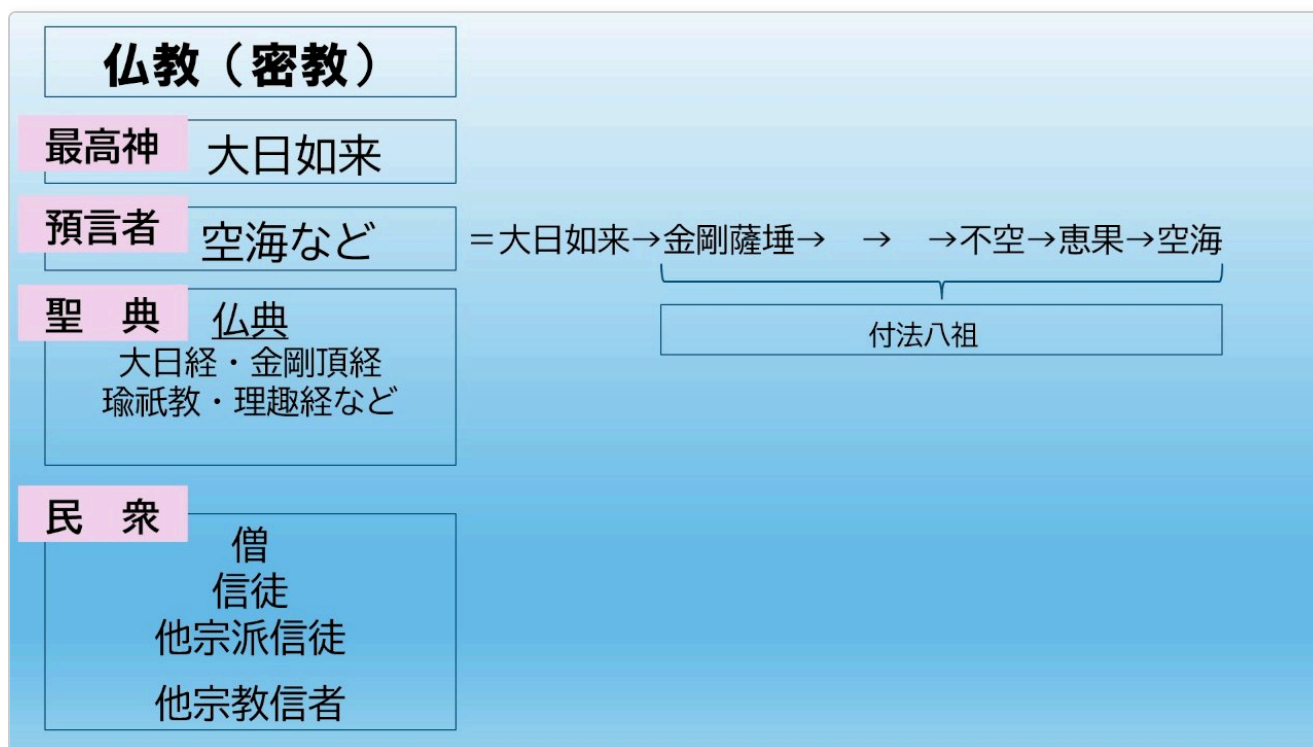
第11章 仏教（密教） — 大日如来と空海

この考え方だと、シンギュラリティーに立ち至ることが難しいってことが後で分かっていただけだと思うんですけども。今度は仏教の中で、先程の顕教と違って全く違う考え方をするのが密教、特に「真言密教」なんですね。

そうするとこれは実は最高神というのはいらんです。「大日如来」という、釈迦如来と一緒に、成仏した人が如来ですから。ただ、その中で最高の宇宙の法そのものって言われてるんですけどね。宇宙の法そのものの大日如来が最高神で、その人を助ける神様が他にたくさんいます。

それから大日如来が場合によっては「応化神」と言って、特別な任務を背負って、ある形になって現れることがある。応用の応に化けるで応化神と言うんですけど、宇宙の真理である、これ法身、法と身体と書いて「法身」である大日如来が化けて出るっていうのかな。悪い意味じゃなくて、こう違う形になって降りてくることもある。

だから突き詰めていくと、大日如来っていうのはもう一つの真理なんですね。外に神様がいっぱいいて。



仏教（密教） — 大日如来から空海への「付法八祖」の系譜

大日如来の教えを預かったグループというのがいて、これがまさにモハメッドとか、例えばイエス・キリストとかモーゼとかと同じ、神から託された預言者、仏教でこの預言者って言いませんけれども、ほとんど同じ意味合いなのが「空海」など。

真言密教の場合は、預言者というのは、まず大日如来が「金剛薩埵」という、これ完全な人間です、人間に教えを与えたんですね。あるやり方で教えを与えて、8人がそれを引き継いできたんだと。密教っての

は口伝と言うかな、その業を親分から弟子にこう一人だけ渡すんですね。これが8人いますよっていうのは、これ「付法相承」といいます。

で、最初金剛薩埵だったから、龍猛とか龍智とかから来て、恵果っていう人は空海が800年代に中国に渡った時に中国にいた、その大日如来の教えを引き継いできた預言者の一人。そこから預言をもらったのが空海なんですね。だから一神教的に言うと、空海も預言者の一人ってことになる。

第12章 キリスト教・密教・仏教の比較

このカラクリが分かっておいていただかないとシンギュラリティの話に行けないので、ここまでちょっと詳しくお話をさせていただきました。これは聖典を覗いただけなんですけども、ここで見ておいていただきたいのは、最高神が最高のまま、微動だにしない。これがキリスト教と密教は一緒なんです。ところが仏教は最高神という言い方をそもそもしないんです。この表は間違いというか、かなり誤解を呼ぶ書き方なんです。

キリスト教	密教	仏教
GOD	最高神 大日如来	仏
Jesus Christ	預言者 龍樹・空海など	仏陀（如来）
聖職者 キリスト教信者	民衆 他宗教信者	仏法僧 仏教信者

キリスト教・密教・仏教の比較 — 最高神と預言者の構造

仏教、普通の仏教は多神教と言ってもいいんです。だけど、キリスト教と密教は一神教なんです。密教は一神教でもあり、多神教でもある。大日如来が、いろんな形で、神として、如来として、菩薩として、私達の前に出てきてくれるから、一神教であり、多神教でもある。

だから仏教の1種と思われてるけれども、実はキリスト教のGODが第1位なんだと言えば、例えば神道の天照大神という最高の神様と大日如来とキリスト教のGODは同じものです。神という一般名詞ですからね。

「遍照金剛」って言ったりするんですけど、世界中あまねく、世界宇宙中をあまねく照らす人で、キリストでもおんなじ表現があります。

仏教内の重大な違い

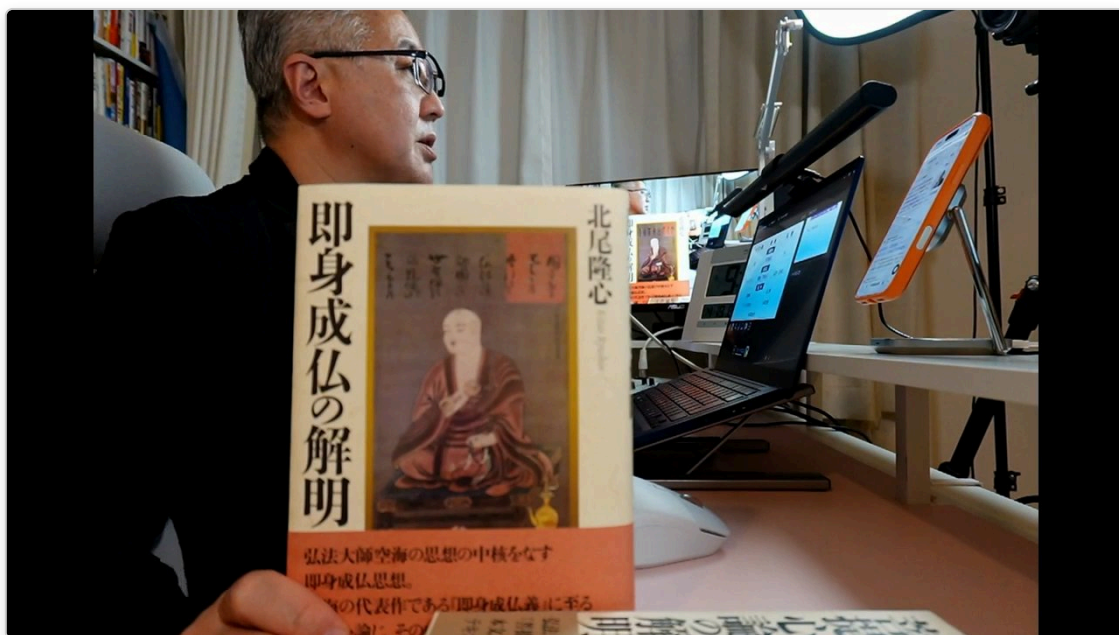
頭教の場合： 即身成仏できた人は、今に至るまで基本的に釈迦一人。だからもうほぼ神。

真言密教では： あなたも成仏できますと言うふうになっている。

→ これがシンギュラリティーと直結してくる。

第13章 ゴータマ・シッダールタ（釈迦）の生涯

密教と顕教を比較したときに、両方、普通の顕教も密教も成仏できた人っていうのは、お釈迦様という、ゴータマ・シッダールタというインド人は即身成仏できたと、すべての宗派が認めてる、密教も認めてるんです、ということは先週言いましたけど、この本を皆さんにご紹介したのは、北尾隆心先生の本。ここには真言密教の立場から、お釈迦様がどうやって成仏したんですかということが解説してくれてるんですね。



『即身成仏の解明』北尾隆心 著 — 真言密教の立場から釈迦の成仏を解明する書

真言密教の立場で即身成仏をした。だけど顕教では即身成仏なんてできませんと言っているのに、貴族の息子だった普通の人のお釈迦様が一人だけ成仏できたことになってる。ここで冷静に見ていくと、即身成仏とは何かという考え方が違うことがわかりますよね。

釈迦の人生の3つのブロック

お釈迦様っていうのは、ちょっとこれも諸説あるんですけども、キリストが生まれる466年くらい前の4月8日生まれ、お釈迦様の誕生日は4月8日です。お金持ちの息子だったから、楽しく貴族として暮らしていたんだけど、何か違うぞと言って、29歳で出家します。

人間というのはもう煩惱ばかりで、生きているのがもう苦しい。それから「輪廻」という、死んだら違う動物に生まれ変わるといふところから逃れられない、様々な、なんとなく辛いことばかりだから、その輪廻の苦しみから離脱したいと言って出家したんですね。

すさまじい艱難苦行といって、何かずっと滝に当たるとか、飯を食わないとか、めちゃくちゃ激しい苦行を6年間に渡ってします。これによって「阿娑頗那伽（あさはなか）三摩地」の境地っていうのに達します。

達したんだけど、あんまり頑張りすぎて、今インドに実際にある川があるんですけどね、ナイランジャンナー川っていう川で死にかけます。漢字で書くと、尼蓮禪河と書くんですけど、ナイランジャンナー川の河畔で死にかけますね。ここにスジャータっていう人が来て、牛乳をくれたんですよ。チーズみたいなもんですね、乳粥という食べ物を食べさせてもらって、死なずにすんだんです。

「コーヒーになる、スジャータ」ってこれが語源なんですね。クリームだから、要するに乳製品で立ち直ったわけです。日本では「醍醐」って言いますが、そういう乳製品で死にかけたのに治った、死なずにすんだ。

そこでお釈迦様は阿娑頗那伽三摩地の境地には達していたんだけど、「こんなことやって死んじゃったらしょうがないじゃん」つって、苦行をやめますってやめたんです。何にしたかっていうと、ブッダガヤという町の菩提樹の下で座ったんです、瞑想に入ります。12月8日に悟りを得たんですよ。仏教の用語では「禅定」と言ったり、「五相成身観」と言ったりするんですけど、成仏したわけです。

その後45年に渡って生きて、80歳で2月15日に涅槃に入る。仏教でいうと仏様、如来が事実上死ぬことを「涅槃に入る」と言うんですよ。これは天国に入ったっていう意味です。



ゴータマ・シッダールタ（釈迦）の生涯 - A：前世までの輪廻、B：29-35歳の苦行、C：35歳で成仏

こう見ると、お釈迦様はまず29歳までは普通に生きていたわけですから、修行期間は実は6年しかないってことになりますよね。6年間で阿娑頗那伽三摩地の境地に立ち至って、さらに瞑想した結果、即身成仏できた。それが五相成身観の境地に達したということなんですけれども。

じゃあ僕らも6年でいいんじゃないと、6年、激しい艱難苦行を釈迦と同じぐらいやって、その後菩提樹に座ったら、お釈迦様の後を継ぐ人が出てくるんじゃないのっていう話になりますよね。ところが一人も出てきてない。2500年経って出てきてないわけです。

第14章 顕教の成仏論 — 六波羅蜜行と阿僧祇劫

なんで出てきてないかっていうと、人間とか動物、生きとし生けるものは命絶えたら別の命に生まれ変わる、これを「輪廻」って言います。英語で言うとリインカーネーション。生まれ変わるということが信じられていて、お釈迦様の場合は、密教以外の仏教の理解では、前世から生まれるまでをAとしますね。これがお釈迦様の人生ですけれども、これを3つのブロックに分けます。

前世までの輪廻を背負って生まれましたよね。これをAとしましょう。29歳から仏道の修行に入った6年かけて、阿娑頗那伽三摩地の境地に達して、その後座ったら五相成身観に行って成仏した。3つのブロックに分かれてるってことになりますよね。

そうすると、これでいくと、A、B、Cと僕らもできるはずじゃないですか。他の人ができてないってことは、顕教の場合はAが違うってことになるわけです。お釈迦様と同じことをした人が何万人もいるんです。激しい修行をした後、坐った人ってもう1万人じゃきかないぐらい、何万人もいるんです。インドにもいるし、中国にもいるし、日本にもいる。それをトレースする、いわゆる艱難苦行っていうのは、いろんな宗派であるんですね。

お釈迦様がやったことを、できやった人は何万人もいるのに成仏しなかったっていうことはAが違うんでしょうと言うのが普通の仏教の考え方なんです。

3つの妄執と六波羅蜜行

ここからシンギュラリティに繋がってるんですけど、何が起きたんですか、それからどうして成仏できたんですかっていうのを、普通の仏教の考え方と言うと、人間が成仏できないのは「3つの妄執」に囚われてるからだ。妄執っていうのは「もうしゅう」と読みますが、囚われちゃってるからそれを除去すればいい。囚われてる限り成仏できない。これは密教も顕教もおんなじ考えなんです。

3つの妄執っていうのは、麤妄執（そもうじゅう）・細妄執・極細妄執と分かります。3つの何か生まれた時に持つてくるコブみたいなものです。これを取れば成仏できるんだよというのは、仏教と共通の理解で、一つ一つ妄執を除去していくんだけど、その時に必要なのは除去するための「修行」と、修行を繰り返して行く「時間」、この2つが必要だと仏教では考えます。

顕教で成仏するには

- ◆人間の持つ3つの妄執（もうじゅう）を除去すれば成仏できる
 - 3妄執＝鹿妄執（そもうじゅう）・細妄執・極細妄執
 - ひとつの妄執を除去するのに必要なのは「修行」と「時間」
- ◆顕教では
 - ・修行＝六波羅蜜行
 - ・時間＝阿僧祇劫（時の単位）
 - 阿僧祇劫＝劫（時の単位）×無数
 - 劫＝恒河沙劫＞ガンジス河の砂を全て数えるのに必要な時間
 - 3つの妄執を除去するには六波羅蜜行を3阿僧祇劫の間実行
- ◆顕教での成仏のポイント
 - 前世までの輪廻もカウント
 - 釈迦は前世までに3阿僧祇劫に近い六波羅蜜行を積み重ねていた
 - 人が修行に入っても、六波羅蜜行が蓄積していないと成仏できない
 - 「成仏が達成できるかは前世次第」
 - 顕教は、信徒がどれだけ努力しても即身成仏は約束できない**

顕教で成仏するには－六波羅蜜行を3阿僧祇劫の間実行する必要

顕教では普通の仏教では修行はどうやって、修行ですかって言ったら、これも1個しかないんです。「六波羅蜜行」というのをしなきゃいけない。これは宗派によっていろいろあります。万行が6つあるから六波羅蜜行なんですけども。

これどのぐらいありますか言ったら、時間は「阿僧祇劫」という単位やないとダメなんです。一個一個の妄執を除去するために、1阿僧祇劫の時間かけないとダメですっていうのが顕教の考え方なんです。阿僧祇劫っていうのは、劫という時間の単位が無数にある中、もう気が遠くなるほど長い時間という意味です。

劫って何ですか言ったら、例えば「恒河沙劫」と言っ、ガンジス川の砂をすべて数えるのに必要な時間、無量ということですよね。もう100万年とかじゃない。ものすごく長い時間という意味が無数に積み重なったのが阿僧祇劫。

ということは、3つの妄執を除去するには六波羅蜜行を3阿僧祇劫の間実行しなきゃいけない、無理ですとさよならと言うことですよ。

前世の輪廻のカウント

じゃあなんでブッダ、お釈迦様は成仏できたんですか？って言ったら、前世までの輪廻がすごかったんだというまとめになってるわけ。これはちょっと仏教ね、笑うところじゃないんですけどね。例えばお釈迦様は、ある神様がちょっとお腹すいた時に、その時のお釈迦様はウサギだったんです。ある神様がお腹すいたで、その神様が如来にならなきゃいけないんだったらって言って身を差し出して食べてもらったんですね。

そのように身を捨ててまで神に仕えたという前世、食っちゃう神様もどうかと思いますけども、食うなよと思うでしょ、でも食っちゃったんだそうです。ただ、そこまでの一回の輪廻がカウントされるわけですよ。すごい頑張ったわけですよ、身を捨てたわけですね。ちなみにお月様にウサギが見えるのは、それそういう理由なんですね。

というわけで、前世までの輪廻もカウントしてるのが顕教の成仏のポイントなんです。だからお釈迦様は前世までに、3阿僧祇劫に渡って六波羅蜜行を積み重ねていった上で、6年かけて最後フィニッシュしたんだと。最後のフィニッシュを、ゴールテープを切れたのが、それは艱難苦行と坐る瞑想を合わせて6年。ただ、その手前で何回も何回も輪廻をしていいとこまで行ってたと。

顕教の限界

そうすると普通の人だね、いいとこまで来てない、現世のお坊さんがどんだけ偉い人が修行しても、あと数1,000万年先まで成仏できないということになる。

ということは、**顕教では生まれた身のまま成仏できるかどうかは前世次第。**

顕教は、信徒が生きてる間にどれだけ努力しても即身成仏「あなたはできますよ」という約束ができない。

第15章 密教の即身成仏 — 三摩地法

そこで違う発想をしてるから、僕は真言宗に興味が生まれたのは、違うやり方ができますよと言ったのが密教なんですね。3つの妄執を人間が持っているってことは一緒なんです。これを除去しなきゃいけないっていうのも一緒に、それに修行と時間がかかるのも一緒。

ただ、密教の場合は、妄執を除去するためには、まず「輪廻の蓄積をカウントしません」。だからズルなしなんです。もう生まれたらそこからヨーイドンなんです。輪廻の中で0かどうかは別にしてね、必須ではないわけです。そうじゃないと、みんなが即身成仏できるってことにならないですからね。

修行ってというのがね、さっきの六波羅蜜行でもいいんです。ただ、これは数1,000万年かかっちゃう。もう一回ですよ、これ「三摩地法」、これやるといいですよというのが、真言密教の他の宗教と根本的に違うのはここなんですね。

密教の即身成仏とは？

- ◆人間の持つ3つの妄執（もうじゅう）を除去すれば成仏できる
 - 3妄執＝鹿妄執（そもうじゅう）・細妄執・極細妄執
 - ひとつの妄執を除去するのに必要なのは「修行」と「時間」
- ◆密教では成仏（＝3妄執の除去）について
 - 輪廻の蓄積をカウントしない
 - 修行＝**六波羅蜜行ないし三摩地法**

<三摩地法とは>

（サンスクリット語の「サマーディ」から）

- ◆最高神と自己を一体化させる瞑想法
 - 深い瞑想状態に入る
 - 三密を加持させる
 - 菩提心を悟る

密教の即身成仏とは？ — 三摩地法（サマーディ）による最高神との一体化

三摩地って何ですかって言ったら、サンスクリット語の「サマーディ」っていう単語から来てる。最高神大日如来と自分を一体化させる瞑想法のことです。簡単に言うとね、最高神というのは大日如来で深い瞑想状態に入るものとされてます。

三密加持（身密・口密・意密）

「三密」を加持させます、身密・口密・意密、と言うんですかね、体でこう、例えばこういう「印契」といってね、体でポーズをとって、難しいことじゃないですね、体でポーズを取る。それから、あるセリフを唱える。で、それを心で思う。これを身密・口密・意密と言って、三密を加持させる。

「加持」させるっていうのは神様から降りてくる、それから自分が神様に働きかける、合わせて加持させるっていうんですけど、これをうまくやると「菩提心を悟る」ということになります。菩提心というのは、この『即身成仏の解明』という本を書いてくださった北尾先生が、これ大事だからって菩提心の本も書いてくれてるんですね。

ここに苦しんで成仏するための大ヒントが書いてあって、菩提心を悟るって書いたんですけど、三密を加持させるっていうのは向こうから来るもので、こっちからあげるもの、それが、相互に往来しなきゃいけないわけですね、ダウンロードとアップロードってことです。その3種類のを加持すると成仏できる。

密教 vs 顕教 — 根本的な違い

顕教：前世の輪廻もカウント → 修行は六波羅蜜行 × 3阿僧祇劫 → 即身成仏は前世次第（事実上不可能）

密教：輪廻の蓄積をカウントしない → 修行は六波羅蜜行ないし三摩地法 → 三密加持で菩提心を悟る → **あなたも成仏できる**

第16章 シングularityへの架橋

修行ってというのは、六波羅蜜行と三摩地法なんだけど、顕教の場合は、ブッダが29歳から35歳まで行った6つも含めて六波羅蜜行なんですけども、顕教ではね。密教では艱難苦行と瞑想は六波羅蜜行じゃないで、別のアプローチだったんだというふうに考えるわけですね。

六波羅蜜行ってというのは気が遠くなるぐらい修行を蓄積しなきゃいけない。ところが今、例えばサム・アルトマンとかね、ダリオ・アモデイとか、アメリカ政府そのものが巨大なデータセンターを作って大量のデータを集めてますよね。

AI と六波羅蜜行

それが人工知能を進化させているんだけど、それが究極までに行くと、特別な知性がとてつもない量の情報を一人で整理できちゃうってことになる、ここでいうところの六波羅蜜行を完成しちゃうってことになる。

今まで数1,000万年かかっていたものを、等比数列的なデータとAIの進化によって、**六波羅蜜行部分、顕教で言えば前世の輪廻の部分の功德まで人類が共有できちゃう**という考え方になる。

私たちには要するにチャンスがあるし、それから、このことを足がかりに今、汎用人工知能を作る試みが行われています。そのうちの1つが「全脳エミュレーション」と「ナノボット」なんですね。

これはね、何かこじつけて言われたら、それはもう受け取り方なんですけれども、私がいろんなことあっても、この考え方が、1000年前のコンピュータがない時代にここまで一致するかということについては、いまだに驚愕を禁じ得ないと言いますかね、このチャンネルをやってる理由の一つでもあるので。

講義のまとめ

まずは一旦この話を一気に言ってしまっ、その上で僕たちが今日何できるか、何をすべきか。

今、語学の勉強とかはやめましょう。無駄だから、できること、やらなきゃいけないこと、それは**自分を見つめて、自分の中にある大日如来と交信すること**なんですね。

ダウンロード・アップロードする、加持することなんですけど、そこらへんの話は来週以降深めていきたいと思います。